

楽しさと学びでつながる、綱島らしい減災のかたち

— 運動会形式で広げる参加型防災

課題、及び、
目指すところ

- 長年続く「減災行動展」を、さらに発展させていくことが課題
- 綱島らしい防災アイデアを盛り込み、若い世代や新しい参加者の巻き込みを目指す

綱島の防災減災を考える会は、東日本大震災を契機に「いざという時に地域で動ける力」を育てることを目的として、減災行動展を中心に14年以上活動しています。

伴走支援（全3回）の初回では、これまで14年以上続けてきた防災活動を振り返り、現在の課題や地域の特性について共有しました。綱島は交通の要所であり、災害時には帰宅困難者が多くなる可能性があります。また、子どもが主体的に参加できる体験型の取り組みが続いてきたことも特徴です。ここでは「安全」だけでなく、避難時の「安心」をどうつくるかという新しい視点も加わりました。

2回目では、「親と子の役割分担」「綱島ならではの」「安全から安心へ」という3つのキーワードをもと

に、防災のアイデアを検討しました。その中で、公園を活用し、子どもから大人まで楽しみながら学べる「減災行動運動会」を開催する方向性が決まりました。遊びや体験を通じて防災を学ぶことで、これまで参加が少なかった方々にも関わっていただける可能性が広がりました。

3回目では、具体的なプログラム案を検討し、「楽しさ」と「学び」をどう両立するかを話し合いました。防災グッズを使ったクイズ、親子で協力する消火体験、地域で協力する競技など、実際の災害時に役立つ内容を取り入れながら、参加者同士が顔見知りになる工夫も重視されました。

また、他地域の事例から、普段のつながりがいざという時の助け合いにつながることも確認されまし

た。今回の取り組みを通じて、防災活動に新しい視点と広がりが生まれました。特に、楽しみながら参加できる工夫を取り入れることで、若い世代や新しい参加者を巻き込む可能性が見えてきました。今後は、これまでの減災行動展の良さを活かしながら、運動会形式の取り組みも加え、「楽しい」と「ためになる」を両立した活動へと発展させていくことが期待されます。

地域のつながりは、一朝一夕にできるものではありません。日頃から顔の見える関係を築くことが、いざという時の安心につながります。今回の取り組みをきっかけに、無理のない形で参加の輪を広げ、綱島らしい防災のかたちを皆さんと一緒に育てていきたいと考えています。



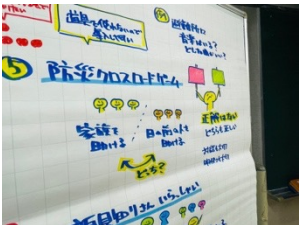
綱島地区14の自治会町内会の関係者を交えた対話



14年以上続く「減災行動展」



M-plus 富川万美さんによる減災行動運動会の紹介



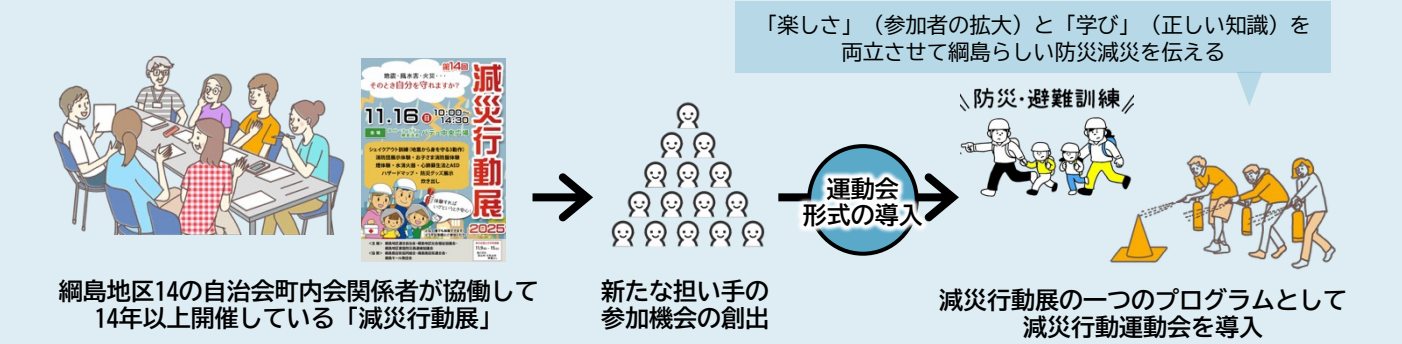
減災行動運動会のプログラム案の検討

参加者の声

伴走支援を通じて、防災活動に新しい気づきや広がりが生まれたと感じています。図解や言葉で整理することで議論が深まり、これまで見ていなかった課題や可能性に気づくことができました。運動会形式は楽しさと学びを両立する工夫の大切さも意識しながら検討を進めていきたいと思っています。

防災をテーマにした課題解決に向けたステップ

これまでの14年以上続く「減災行動展」の振り返りを踏まえ、今後は新たな担い手の参加機会の創出に向けて、減災行動展の一つのプログラムとして「減災行動運動会」を通じて楽しさと学びを両立する企画づくりを進めていきます。



今回ご協力いただいたアドバイザー

特定非営利活動法人
M-plus 富川万美さん



東日本大震災の支援活動を機にM-plusの設立に参加。子育ての当事者が自ら学び、自ら考え、自ら動く「アクティブ防災®」を提唱し、防災講座、ファシリテーターの育成を行う。 <https://web-mamaplus.com/>

自分たちの自治会でも実践してみませんか？

具体的な取り組みやアイデアの一例

【減災行動運動会（楽しさと学びの工夫）】
地域対抗でバケツリレーや担架競争を行い、速さだけでなく「どれだけ水をこぼさず運べたか」「安全に運んでいるか」を評価対象にするアイデア。
楽しみながら参加できるだけでなく、正しい動きや工夫を自然に学べる内容で、競技を通じて会話や協力が生まれ、地域のつながりづくりにもつながることを期待します。



（補足）
災害時に本当に役立つのは「顔の見える関係」です。運動会のように体を動かしながら協力することで、自然と会話生まれ、地域のつながりが深まります。楽しみながら参加できる場合は、これまで関わりの少なかった方の参加のきっかけにもなります。日頃の関係づくりの積み重ねが、いざという時の安心と助け合いにつながります。

自分たちの自治会町内会で導入する際のチェックリスト

- 【楽しさの取り入れ方】防災に「楽しさ」を加えたとしたら、どんな形が考えられるでしょうか？
- 【参加の工夫】見るだけでなく、体を動かして参加できる内容には何があるでしょうか？
- 【学びの深め方】正しいやり方や工夫を自然に学べる仕組みは、どのようにつくれるでしょうか？
- 【つながりづくり】参加者同士が自然に声を掛け合う場にするには、どんな工夫ができるでしょうか？
- 【参加の広がり】これまで参加していない人が来たくなるには、どんなきっかけがあるとよいでしょうか？